



北海道の労働と福祉を考える会 会報

ともに生きる

2012年3月10日発行（第25号）

～傍らを歩きながら～

過去に労福会の活動を担った人に当時の様子や思い出を語ってもらうこのコーナー。今号は南部葵さんです。山内太郎さん曰く「実質的に労福会を作り上げた男」。その南部さんに当時を振り返ってもらいました。

「10年経って気がついたこと」

南部葵

私が労福会の中心メンバーとして活動していたのは、今からもう10年も前のことになります。そもそも福祉を専攻していた訳ではなかったし、将来も福祉に関係する仕事に就こうとも思っていなかったのですが、どういう因縁があってか、大切な税金を使いながら、児童福祉に携わる仕事をしています。今、福祉の専門職員の立場になってみて、労福会の掲げる自立の支援とは、なんて難しい課題なのだろうとあらためて思います。

労福会の活動をはじめた頃、市民の方から「こんな目的もはっきりしない活動に賛同できない」とみんなの前で叱られたり、専門的な立場の人から「当事者の人たちことを真剣に考えようとしていない」と批判されたりしました。当時は、傷つきながらも、「何もしていない奴らに、とやかく言われたくない」と強がっていました。でも、この「真剣に考える」については、ずっと私の心のなかに引っかかっていたのです。

仕事柄、これまで北海道の福祉を支えてきた、尊敬に値する「すごい大人」の何人かと出会ってきたのですが、その都度、知識や経験よりも「相手と誠実に向き合うこと」が一番大切だと教えられました。そもそも「支援をする」ということ自体、上目線な要素が含まれています。「たいへんなことありませんか」と声を掛けることで（必ず

しもその声掛けが悪いという意味ではなくて・・・）、当事者の人によっては「やっぱり自分はたいへんな人だと思われるんだ」と再認識してしまうかもしれません。ただ同じ言葉でも、その言葉の掛け方や言葉を掛けた人が心のなかでどんな思いを持っているのかによって、言葉の持つ意味合いというのは変わってくるのです。これは私が働き始めて経験したことです。不登校で苦しんでいる子どもに対して、何も力になれることができなくて一緒に同じ空間にいることしかできなかったのに、その子どもに、泣きながらお礼を言われたことがありました。私自身は、たいしたことできなくて、本当に申し訳ない気持ちで一杯だったのですが、言葉や行動以外の何かがその子どもに伝わったのだと思います。

支援の方法というのは、同じ状況にある人でも、掛ける言葉もそのタイミングもみんな違います。その人が、どんなことを感じていて、今、何が必要なかをみんなで考え、話し合ってほしいのです。

10年前、いくつもの批判を受け、それが重荷で、自分のなかで苦しんだ時期もありました。今、思えば、自分にとって嫌な意見を聞かされたり、苦手な人と付き合うことが、後々、自分にとっての力となったのかもしれません。

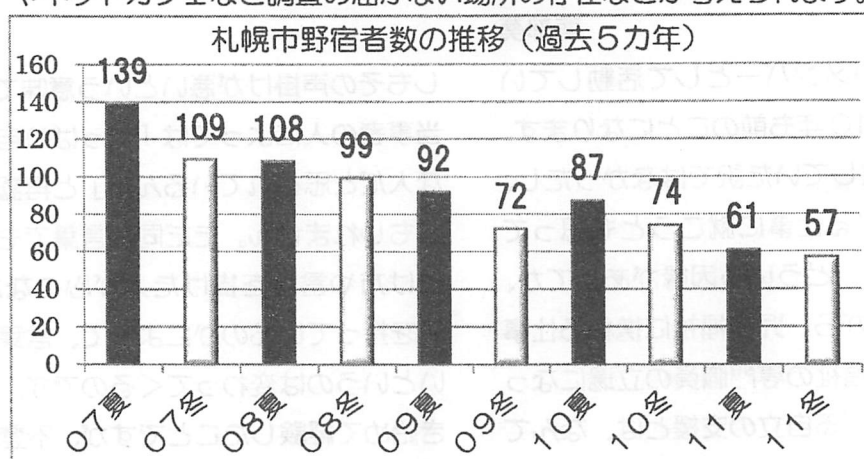
‘12冬季人数調査報告

労福会では、札幌市における野宿者数をカウントする人数調査を夏季と冬季の2回行っています。今年度は1月21日（土）に調査員33名が早朝4時に集まり、札幌市全域を10のブロックに分けて一斉に野宿者の人数をカウントしました。

調査の結果、57名の野宿者を確認しました。以下、調査から見られた傾向を大まかに報告します。

まず57名という全体の数についてですが、グラフのとおりここ数年札幌の野宿者数は減少傾向にあり、今回の調査でもその流れを示すこととなりました。

もちろん調査を実施する時間帯や調査地区の設定が適切であるのかなど、調査方法を検討する余地はありますが、全国的に野宿者の数が減少していることを考えると札幌市においても野宿者が減少していることは間違いなさそうです。その要因は様々であると思いますが、例えば路上からの生活保護申請が比較的しやすくなったこと（例えば今年度に札幌市で路上から生活保護申請があった件数は2月20日現在で257件）やネットカフェなど調査の届かない場所の存在などが考えられます。



今回の調査結果の特徴として、郊外で確認された人数の割合が大幅に増えた（全体の4割弱）点を挙げることができます。総数が減少しているということもありますが、野宿者が郊外に分散している傾向を示しているのかもしれません。

郊外で確認した実数と全体に占める比率の推移（冬季のみ）

	07冬	08冬	09冬	10冬	11冬
実数	22人	30人	16人	19人	22人
比率	20.1%	30.3%	22.2%	25.6%	38.6%

※郊外とは札幌駅、大通公園近辺、狸小路・すすきの近辺を除いた区域

また、全体数に占める女性の割合が相対的に増加した（男性の実数が減少した）点も今回の調査結果の特徴と言えます。ただし女性の人数は年度によってかなり増減があるため、その要因を別途検討する必要がありますかもしれません。

女性の実数と全体に占める比率の推移（過去5カ年）

	07夏	07冬	08夏	08冬	09夏	09冬	10夏	10冬	11夏	11冬
実数	6人	5人	—	4人	13人	6人	—	1人	2人	7人
比率	4.3%	4.5%	—	4.0%	14.1%	8.3%	—	1.3%	3.2%	12.2%

※08年、10年の夏のデータは所在不明

紙幅の関係上、ここでは述べることはできませんが、人数調査とは別に当事者に個別にインタビューをする聞き取り調査も行いました（21件）。調査の分析はこれからであるため、また別途報告します。

（山内太郎）

教えて！安東さん！！③

～司法書士、安東さんが解りやすく教えてくれる福祉に関するQ&A～



Q：借金があっても、生活保護は受けられますか？

A：はい。受けられます。

生活保護は、国が決めた基準で計算した1か月の生活費（＝最低生活費）と、自分の実際の収入（お給料や年金など）をくらべて、実際の収入のほうが少ないときに、受けられるものです。

「借金があるか、ないか」は、関係ありません。

ただし、保護費で借金を返済することは、原則、できません。（保護費で借金を返済したら保護が打ち切られる、ということではありません。本来、もらった保護費を何に使うかは、ご本人の自由です。ただ、保護費から借金を返すと、生活費が足りなくなってしまうので、ケースワーカーさんは「借金を返してはいけません」と言うのです。）

でも、借金を返さないと、取り立てがコワイですね？

借金問題は、弁護士や司法書士に相談することで、解決できます。（弁護士や司法書士に依頼すると、サラ金からの取り立てはストップします。）

借金を整理する方法ですが…

サラ金からの借金を5年以上返していなければ、時効で、返さなくてよい場合があります。返し続けた期間が長ければ、過払いと言って、お金が戻ってくることもあります。もし、借金が残っていたとしても、自己破産の手続きをして、借金を免除してもらう方法もあります（自己破産は、実際の生活や仕事にはほとんど影響がありません）。

弁護士や司法書士に依頼するお金がなくても、「法テラス」というところで立て替えてくれる制度があります（立て替えてくれた分は、あとで分割で返すのですが、生活保護を受けている方の場合、免除される可能性が高いです）。

サラ金は定期的に住民票を取っているの、ホームレス状態からアパートに移ると、ある日とつぜん、借金の取り立てが来たりします。

そんなときは、怖がらずに、まずは相談しましょう。

札幌司法書士会 無料法律相談センター（※ 借金以外の相談も無料です）

予約電話番号：011-272-9035

安東 朋美

なんもさサポート

「ろうふく」と 「なんもさサポート」

なんもさサポート代表社員 中塚 忠康

いまから7年くらい前の6月15日になんもさサポートは発足しました。

その日のうちにろうふくの会員でホームレス支援を一生懸命している人を紹介するよとのことで眞鍋さん(現ベトサダ代表)を紹介され、その日の夜が夜回りの日だったので、即参加表明。これが「ろうふく会」とのかかわりの第一歩でした。

三越前の広場に7～8人の学生や社会人が集まり、2～3人ペアで各コースをコーヒーを持っておじさんのいる場所へ移動。ただただついていくのみ、どの人がおじさんなのか? リュックと紙袋、傘とペットボトルを持っている人は確実におじさんだった記憶が残っています。

しかし、7年間の歳月は大きく変化し、派遣切りでネットカフェに泊ってホームレスになった人が最近は増えました。「ろうふく会」の人たちと語り、活動するなかで確実にホームレスと社会を視る力をつけてきました。

脱路上しても、再路上になる人も多く、ホームレスをつくらない活動も必要になってきました。生活保護をもらうために力を貸すのではなく、その後のフォローの大切さがわかりました。そのためには何故ホームレスになったのかを知ること。この中で酒、賭事(パチンコ)依存症の人も多く、また刑余者も多くおり、それを追求すると社会発達障害、知的障害、統合失調症、現代社会で落ちこぼれになっていく人たちが非常に多いことがわかり、これらの対応も含めてフォローの大切さを知ってきました。

また、支援活動をすすめるなかで物配主義的な支援はホームレスの固定化につながっていることもわかってきました。「週に6食たべれば家賃、ライフラインの心配なしで、夜の寒さを我慢

もうそろそろ③

協力連携いただいている団体を
順にご紹介します。



すればいい」いまだに脱路上しない人の切実な話です。脱路上したおじさんが相談会に来るのは、さびしいから、衣服や風呂券が当たるから。この人たちの生活はどのようになっているのかをわれわれはもっと知る必要があります、対応できるようにしなければならないと思う。

全国ホームレス支援機構も長期のホームレスの脱路上対策に苦心しています。一人の路上生活者をしっかり分析して、この人はどのような支援によって脱路上できるのか、残念ながら現状の「なんもさサポート」の活動ではまだ解決できない状況です。

今回「ろうふく会」よりかかわりを書くように言われ、もう一度初めから思い出していました。7年たつとホームレスのおじさん方も質が変わった。ですから支援する方が変わらなければ何年も平行で、おじさんに手が届かない支援で歳を重ねさせて、行旅死を迎えるホームレスも出てくることになるから、急いで力をつけなければならない。ホームレスでいることが「ダメということ」なんだからやめられる環境づくりの中に入れるようにすること、そして、脱路上したら再路上させないフォローの力を強めていかなければならない。一人ひとりにきっちりと話をしていくこと、これが大切だと思っています。

ホームレスのおじさんも安心して脱路上して社会の中で生きて欲しい。「ろうふく会」と「なんもさサポート」は、それらを実現させるために55歳以下の人は生活保護に頼らないでも頑張れる環境をつくっているNPO法人ベトサダと今後も一緒に頑張っていきたい。「人を愛する心を持つ」を座右の銘として。

クリスマス川柳 入選作品発表

クリスマス会でカレーを食べておなかいっぱいになったとき、みんなでクリスマスの川柳を詠みました。

「私たちの班ではこの川柳が一番！」という川柳を各班から発表してもらい、審査員から独特の名前の賞が贈られました。

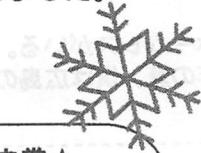


A班 ☆メタボに気をつけま賞☆

「まんぷくだ これではサンタ うごけない」

カレーやサラダなど結構量ありましたね。沢山食べた状態を「サンタ 動けない」と表現しているところがクリスマスらしく面白いと思いました。メタボって言葉はかわいらしいですが心臓病や脳卒中といった病気の危険性が高まるらしいので注意です！

(講評：山本詩穂)



B班 ☆それはないで賞☆

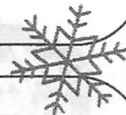
「ベルの音 空からケーキ 雪明かり」

極寒の地・札幌で、ホワイトクリスマスを楽しむ様子が伝わってきます。一見ファンタジーな情景を詠んでいるようにも取れますが、「降ってくる雪でさえサンタからの贈り物に見える」という、クリスマス特有の浮き立った心境がよく表現されています。すてきです。(講評：松浦聡美)

C班 ☆来年は計画的に生きま賞☆

「来年の ツリーのサラダは 小さめに」

サラダをツリーのように盛り付けた班があり、その山積みのボリュームを見て詠んだ一句。「ツリーのサラダ」と褒めておいて「小さめに」でオチを作るというリズムが上手い。料理楽しかったけどおなかいっぱいでもちょっと苦しいな。てへ。という会場の雰囲気伝わります。(講評：内山明)



D班 ☆持ち上げすぎで賞☆

「学生の 楽しい企画 星の夢」

非常に悲しい歌である。星は手の届かないところにあり、夢は、結局は起きたら現実に戻ってしまう。そのことを念頭に踏まえて、この一句を詠むと、僕の心には一抹の虚しさが込み上げてくる。この賞の名前を考えた人は一体どのような気持ちだったのだろう。(講評：高田晃太郎)



E班 ☆涙ポロリで賞☆

「ありがとう きょうの良き日に 生まれたよ」

まるで読んだ人の心の中にポツとろうそくの火が灯るような、とても暖かで優しい川柳だと思います。この川柳の主人公は、イエス・キリストです。「きょうの」と、漢字ではなくひらがなを使うことで、この川柳の柔らかさをさらに引き立たせているように感じます。(講評：黒森理恵子)

F班 ☆君に幸あれ賞☆

「クリスマス 今日も苦しいな クリスマス」

「今日も」が苦しさ・辛さを引き立たせてますね。そいえば、イブのクリスマス会の後、自分へのクリスマスプレゼントにスマホを買いましたが、徐々に辛くなりました。ですが、自分は「今日も」でなく「今日は」になるので、作者のそれには及ばないでしょう。君に幸あれ。(講評：山田裕希)





タカダコウタロウの 「もうどっか行くしかない！」

広島には広島太郎という超有名なホームレスがいる。これほど有名なホームレスは全国どこを探してもいないだろう。去年の夏、僕は広島の友達と広島太郎に会いに行った。
(高田晃太郎)

第三回「広島を歩く」

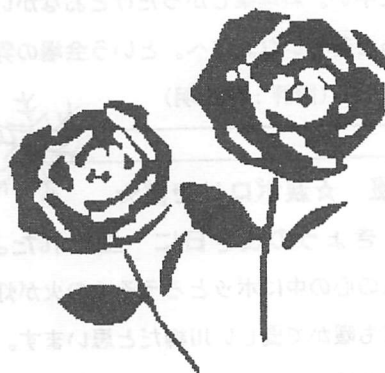
広島太郎という人を知っているだろうか。広島に住む人なら誰もが知っているほどの有名人だ。なぜそれほど有名なのかというと、この人は26の時から30年以上も広島でホームレスをやっていて、マスコミにも出たことがあるらしい。そして何よりも見た目のインパクトがすごい。

去年の夏に広島太郎を訪ねて広島に行った。実はそれ以前にも広島太郎を訪ねに行ったことがあるのだが、その時は自転車しか見つからなくて今回は2回目の訪問だった。しかし今回は、歓楽街を歩いていると、一目で分かった。「広島太郎さんですか？」と聞くと、肯く。話に聞いてた通り、確かに1度見たら忘れないインパクトだ。赤い布を巻きつけ安全ピンで止めたような服を着て、アンパンマンやキティちゃんのぬいぐるみをぶら下げている。

しかし、話してみるととても気さくな人で、赤川次郎や貯金について話してくれた。もちろん広島弁で。話している最中、黒いスーツを着た男が近づいてきて、広島太郎に5000円札を渡した。それにはびっくりして、「月にどのくらいお金を貰ってるの？」と聞くと、「15万・・・多い時は30万くらいじゃ。」広島太郎は素直にお札を受け取ると、当たり前のようにポケットにしまった。「生きていること自体が労働であり、価値を生み出している」と言ったのはアントニオ・ネグリだったが、ベーシック・インカムの根底にあるこの思想を広島太郎は体現していると言える

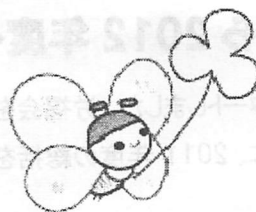
かもしれない。

広島太郎を巡っては、色々な噂がある。社長の息子だとか、大企業の社員だったとか、失恋がきっかけでホームレスになったとか、実は2代目という噂も聞いた。それにしても気になったのは、広島太郎を探しているときに、「広島太郎がどこにいるか知っていますか？」と聞いて回ったときに、反応が何となく悪かったことだ。あれは一体何だったのだろうか？広島市民なら広島太郎を知らない者はいない。しかし、声をかける人間もほとんどいない。



誰もが「そこにいる」のを知っていて、誰もが「そこにはいない」かのように通り過ぎて行く。広島太郎はあそこでとてつもない存在感を放っていたが、同時に誰よりも透明だった。

「一緒に写真を撮らせてください」と頼むと、2000円を請求された。僕はそこを500円に値切って写真を撮らせてもらい、広島を後にした。



事務局だより

5月、9月、12月、そして3月、今年度の『ともに生きる』は今号で最後です。一年前の総会は3月12日でした。地震の翌日という重苦しい空気の中で新体制が始まり、いつの間にやら年度末という、唸るような一年でした。総会資料を作るために一年間の活動を炊き出しから事例検討会まですべて書き出して見るとギッシリした文字に目がチカチカしました。こんなにたくさんやり遂げたんですね。周りの人たちに助けられてなんとか続けられました。大変なときに事務局次長の黒森さんに「やりなげだ」と嘆くと「なげやりでしょ、槍なんか投げないで」と笑われました。嶋田先生は韓国から帰国する日と事務局会議の日が重なったとき、日本の土を踏むやいなやマッコリが詰まった段ボール箱を抱えながら私たちの目の前へ駆けつけてくれました。先生なのになぜか先生と呼ばれない山内太郎さんは何度も私の肩の力を抜いてくれました。事務局便りなのに私の感想になってしまってすみません。一年間ありがとうございました。

(事務局長 内山明)



編集後記



今年は雪が多くて大変でしたが、3月になり、寒さが和らぎ、少しずつ春らしくなってきました。会報第25号が皆さんのお手元に届く頃には更に暖かくなっていると思います。今年度は炊き出し、夜回り以外に当事者の皆さんとの交流を深める企画、運営がありました。今号は、それらの内容が楽しく盛りだくさんに載っております。いかがでしたか？私自身、いち早く読ませてもらえるため、会報を発行するのを毎回楽しみにしています。皆さんにも私と同じ気持ちになっていただけるよう、スタッフみなで協力していきます。ご意見や原稿を、お待ちしております。

(工藤浩美)

先日、オホーツクへ流氷を見に行きました。字のごとく氷が流れているのかなと思って行ってみると、全然違って、どこまでも続く白い大地といった感じでした。流氷の上を歩いている人もちらほらいましたが、そのまま歩いてシベリアまで行けそうにも思えました。帰りは夕暮れ時で、ピンクに照らされた流氷が本当に綺麗でした。流氷は岸から離れ北に帰っていく春が一番美しいと聞いたりしたので、来年は春に行ってみたいと思います。

(高田晃太郎)



2011 年度から 2012 年度へ!

3月に 2012 年度がスタートしました。労福会を今後さらによいものにするために、2011 年度の総括を行います。

2011 年度 総会

とき : 3月18日(日) 午後

会場 : 市民ホール

午前中には釧路調査の報告会を予定しています。

会員のみなさんの参加をお待ちしています!

ご寄付をいただいた方々

(12月1日~2月29日)

北星学園大学短期大学部

クリスマス礼拝 さま

楠 高志 さま

嶋田 佳広 さま

ありがとうございました!

インフォメーション



夜 まわりのお知らせ

とき: 第一・第三土曜日

20:00~22:00

集合: 札幌駅南口

アピアドーム前

次回は3月17日です。

炊 き出しのお知らせ

とき: 5月19日(土)

昼(時間未定)

場所: 中央区民

センター

共催: 札幌市



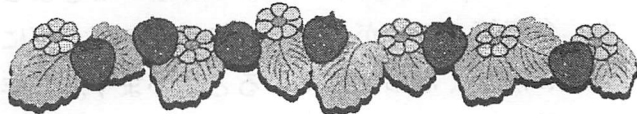
会員募集

北海道の労働と福祉を考える会」では、一緒に活動していただける会員を募集しています。

お問い合わせは下記の連絡先へ

メール・お電話、どちらでもかまいません。

ご連絡お待ちしております。



※夜回り、炊き出しともに、ボランティアを募集しています。お手伝いして下さる方は事前にご連絡ください。

納入はもうお済みですか?

~会費納入のお願い~

会費は、私たちの活動を支える大事な財源です。早めの納入をよろしくお願いいたします。

※すでに 2012 年度の会費を受け付けております。

《郵便振替口座》

講座番号 : 02730-0-37163

講座名義 : 北海道の労働と福祉を考える会

2011 年度の会費をまだ納入されていない方は、お急ぎお振込みをよろしくお願いいたします。

「ともに生きる」25号

2012年3月10日発行

北海道の労働と福祉を考える会

発行責任者 嶋田佳広

編集担当

大友駿 細谷洋子 内山明 工藤浩美

黒森理恵子 高田晃太郎 中島杏子

〒001-0010

札幌市北区 10 条西 1 丁目 4-1 近藤アパート 201

電話 090-7515-8393 090-7515-8393

E-mail info@roufuku.org

HP <http://roufuku.org>